

平成30年度 行政評価表：教育施設課

【Plan】計画 / 【Do】実施															【Check】評価 / 【Action】改善															
施策名	事業名	事業・取組概要	事業評価の活動指標(目標・実績)															H29年度		H30年度		事業成果の評価		予算・コストの評価		見直しの方向性(担当者評価)				
			事業評価の活動指標(目標・実績)					事業評価の成果指標(目標・実績)					事業評価の成果指標(目標・実績)					H29年度 決算額 (千円)	H30年度 決算額 (千円)	成果向上 余地はあるか	評価の理由	コスト削減 余地はあるか	事業 評価	1次評価(担当者評価)		2次評価				
			指標名等	単位	H29年度 目標	H29年度 実績	H29年度 達成率	指標名等	単位	H29年度 目標	H29年度 実績	H29年度 達成率	指標名等	単位	H30年度 目標	H30年度 実績	H30年度 達成率							事業評価	評価の理由	R2年度 予算要求の 方向性	所属長 評価			
学校教育の推進	小学校施設環境改善事業(エアコン設置)	普通教室及び特別支援教室にエアコンを設置する。	エアコンの設置教室数	室	—	—	—	163	0	0%	普通教室のエアコン設置率	%	—	—	—	100	2	2%	—	515,631	10,460	なし	すべての普通教室及び特別支援教室に設置しているため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	完了	令和元年度に繰越した予算により、事業が完了するため。	令和元年度に完了予定であるため、要求しない。	完了	H30年度の途中から前倒しして始まった事業であるため、H30年度内の完了はできなかった。令和元年度8月末に完了予定である。
学校教育の推進	小学校施設環境改善事業(大川内小トイレ改修)	大川内小学校のトイレについて、男女の区分けがなされておらず、老朽化も進んでいるため、年度ごとに次の取組みを行い、男女を分けるとともに、トイレの環境を改善する。 平成30年度：実施設計 令和元年度：改修工事	年度毎の進捗率	%	—	—	—	100	100	100%	事業全体の進捗率	%	—	—	—	10	10	100%	—	2,106	2,106	なし	教育環境として必要な施設整備のみを行っているため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	維持	下水道に接続できていない学校や、トイレの老朽化が進んだ学校があり、引き続き事業を進めていく必要があるため。	令和元年度に大川内小学校が完了するため、次に改修が必要な学校について、予算要求を行う。	維持	トイレの改修が望まれる学校が多いため、事業を継続していく必要がある。
学校教育の推進	中学校施設環境改善事業	普通教室及び特別支援教室にエアコンを設置する。	エアコンの設置教室数	室	—	—	—	72	0	0%	普通教室のエアコン設置率	%	—	—	—	100	2	2%	—	119,696	40,269	なし	すべての普通教室及び特別支援教室に設置しているため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	完了	令和元年度に繰越した予算により、事業が完了するため。	令和元年度に完了予定であるため、要求しない。	完了	H30年度の途中から前倒しして始まった事業であるため、H30年度内の完了はできなかった。令和元年度5月末に完了した。
学校教育の推進	小中一貫校整備事業	南波多小学校と南波多中学校の平成30年4月の統合に合わせて、年度ごとに次に次の取組みを行う。 平成28年度：基本・実施設計 平成29年度：校舎建設・改修工事 平成30年度：屋外環境整備工事	年度毎の進捗率	%	100	100	100%	100	100	100%	事業全体の進捗率	%	82	82	100%	100	100	100%	263,420	63,721	61,810	なし	教育環境として必要な施設整備のみを行っているため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	休止	南波多郷学館の施設整備が完了し、現在のところ次の統合の予定がないため。	予算要求しない	休止	南波多郷学館としての統合に伴う事業は完了した。地元からは旧南波多中学校の更なる整備を求められており、それを実施する場合は別事業として取り組む必要がある。
学校教育の推進	中学校建設事業	伊万里中学校は耐震化がなされておらず、老朽化も進んでいるため、年度ごとに次に次の取組みを行い、校舎を全面的に改築する。 平成29年度：基本設計 平成30年度：実施設計 令和元年度～令和4年度：校舎改築・屋体改修工事 令和5年度：剣道場・部室・外構工事	年度毎の進捗率	%	100	100	100%	100	100	100%	学校の耐震化率	%	91	91	100%	91	91	100%	27,235	40,479	40,380	なし	教育環境として必要な施設整備のみを行っているため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	維持	学校の耐震化は最優先課題であるため、耐震化率が100%になるまで継続する必要がある。	継続費が組まれているため、これにより予算要求を行う。	維持	伊万里中学校は市内の中学校で最も耐震化が遅れており、生徒の安全・安心のために事業を継続していく必要がある。
施策体系外	公立学区施設災害復旧事業(単独、現年)	平成30年7月豪雨により、東陵中学校の法面が被災したため、原型復旧のための調査設計を行う。	年度毎の進捗率	%	—	—	—	100	100	100%	事業全体の進捗率	%	—	—	—	100	100	100%	—	3,780	3,780	なし	原型復旧のための事業であるため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	完了	H30年度で完了したため	予算要求しない	完了	平成30年7月豪雨に係る事業については完了した。新たに被災した場合は、また新たに事業を行う必要がある。
施策体系外	公立学校施設災害復旧事業(補助、現年)	平成30年7月豪雨により、東陵中学校の法面が被災したため、原型復旧のための工事を行う。	年度毎の進捗率	%	—	—	—	100	0	0%	事業全体の進捗率	%	—	—	—	100	0	0%	—	47,985	16,900	なし	原型復旧のための事業であるため	なし	基準に準じた設計を行った上で、入札にて費用が決まるため、意図したコストの削減はできない。	完了	令和元年度に繰越した予算により、事業が完了するため。	予算要求しない	完了	平成30年7月豪雨における災害復旧は令和元年度で完了する。新たに被災した場合は、また新たに事業を行う必要がある。